

定年旅行(機械工学科1期生6名の四国^{おおぼけこぼけ}大歩危小歩危の事件簿)

定年をむかえそれぞれの第2の人生を歩み出した仲間6名が6月9日～11日の3日間四国旅行に出かけた。

昨年4月に伊豆旅行を計画していたがあの東日本大震災の為自粛し、今年に持ち越した定年旅行は植木君のまめな旅行計画により楽しいものとなった。3日間とも好天に恵まれ高知県(足摺岬、四万十川、桂浜)、徳島県(大歩危・小歩危・かずら橋)、愛媛県(金毘羅さん)と景色のよい最高の旅であった。

今からここにご紹介するのは風光明美な景色の話ではなく3日間の旅行中の数々の事件? いや題名通りのおおぼけ・こぼけ・本ぼけ6名のお恥ずかしい笑い話である。

今後定年旅行を計画されている同僚・後輩の皆さんに事件の内容を記して定年旅行の注意点と教訓を伝えたい。

登場人物

- ◆ 菅原君 (57歳で一念奮起、社会保険労務士の試験を一発で合格。今やその風貌とは似合わない労務士先生。北海道から参加)
- ◆ 宇高君 (今も昔もマージャン好きのシャッターマン。東京から参加)
- ◆ 加藤君 (補償交渉の名人。四国鉱山の山堀男。新居浜から参加)
- ◆ 植木君 (鉄道車輪の話をしたら止まらない仕事人間。山好き。奈良から参加)
- ◆ 森君 (髭のコンクリートマン。大阪から参加)
- ◆ 大内 (ちょい悪親父。旅行記担当。神戸から参加)

1. 加藤君、疑惑携帯 TEL メール事件

今回の旅行の案内人、四国住人の加藤君から出発の4日前にみんなの所に次の様なメールが届いた。

「四国旅行会員 各位」

今朝のローカル天気予報によれば、四国の入梅が15日頃と予想されているようです。

万歳しました。これも会員様の普段の行いのおかげです。

また、弊方の携帯電話番号をお知らせします。

加藤 090-****-****

以上、高松空港で会いましょう。

加藤君の天気状況報告、携帯電話再確認メールの細かい気配りに感謝しそれぞれ出発前に電話帳の携帯番号を変更した。

初日、東京から高松空港までやって来る宇高君を迎えるため関西から植木君の車で菅原君、森君、大内の4名が、加藤君は新居浜から高松空港へそれぞれ向かった。

高松空港に着く手前で加藤君に電話を入れた。すると全然違う人にかかってしまった。入力間違いかと思ったが同乗する皆の番号は同じ。森君一人だけ以前の電話番号も残しておいたので前の番号で掛けるとやっと繋がった。

高松空港について連絡してくれた電話が繋がらなかった理由を聞くと、ただただ笑いながら「面目ない・カッコ悪い」と平謝りするのみ。

いまでも真相は明らかではないが推測するに、皆に気を使って再確認の意味で自分の携帯番号を知らせようとしたまでは良かったが、090-の後に自宅の電話番号を無意識のうちに付けてしまったようである。これも単身赴任のはかなさか？いつも電話する愛妻のいる自宅の電話番号が頭から離れなかった様である。

◆ 教訓1

- この年になると変更連絡があった場合は必ず事前に確認し合おう。
念の為変更前の情報は少しの間保存しよう。

2. 菅原清君、メガネ行方不明事件

朝起きると菅原君がポストンバックや身の回りをゴソゴソ探し物。

「おーい、みんなおれのメガネ知らねえか？」

その言葉に、みんなは適当にその辺を見渡し「ないなー、そのうち出てくるだろうから朝めし行こうや」

朝ご飯を食いながらも菅原君はいつもの賑やかさを振舞ってはいたものの少し雰囲気が違う。部屋に帰ると「昼飯おごるからみんなで探してくれ」の言葉を機に6名のメガネ探しの「迷探偵コンナン」が始まった。

まずいつまでメガネを掛けていたかを確認しようと、昨日撮ったデジカメ画面を逆戻り、夕食時に仲居さんに撮ってもらった記念写真の時まではメガネを掛けていた。必ずホテルの中にある事は確認出来た。

そこから朝起きるまでの行動を本人に事情聴取。

「①部屋に帰ってから風呂に行って ②テレビのスポーツニュースを見て ③寝床に入って週刊誌を見ながら寝た」との証言。

- ① 風呂に行ってみたが見当たらない、フロントに届いていないか確認するも届け出はなし。
- ② 清君がテレビのスポーツニュースを見ていた場所の近を探し、【ここでメガネを掛けて見ていたか？】 「ここからならメガネを掛けていなかったら画面が見えないから掛けていた」 【それでは昨日阪神勝ったか？】 「わすれた」 【まあそれは単なる物覚えの問題でメガネを掛けていて、見えた・見えないの問題ではないな】 などと言いながら次のステップへ。

- ③ 【寝床で週刊誌を読む時はメガネを掛けているのか】 「いいやはずす」それから布団周りの検索が始まった。宇高君の【取りあえず全部の布団カバーを外して見よう】の言葉でカバーをはずすと本人の寝ていた布団カバーの奥の方になにやら光るものが。一同大爆笑の中にも一安心。

【おい、昼飯何食おうか？】 「俺何か言ったか？」 良く忘れる人である。

◆ 教訓 2

- オウム事件の指名手配情報賞金と同じで何か探し物する時は見返りが捜査力を発揮する。
- 本当の物忘れと、わざと忘れたふりをするの見抜こう。
- その夜のビール代として 3000 円臨時会費として徴収した。

3. 森君他、見残し海岸、ゼーゼー事件。

加藤君からの勧めで足摺岬の近くの「見残し海岸」に行こうと言う事になった。「見残し海岸」とは四国巡礼の弘法大師がその絶景を見残してしまったと後でえらい後悔をしたという由来のある海岸であるとの事。

駐車場に着くと【見残し海岸展望台まで 1.1Km】の看板が一つ。車で行ける所と思っていたメンバーもしばし躊躇したが、植木君の「学校のグラウンド 3 周弱やないか」の言葉に「そゃな、ここまで来たから行こうか」それが間違いだった。

確かに距離はグラウンド 3 週弱だったが高低差のある海岸ぶちの山道。山登りの好きな植木君になんとか付いていった大内が展望台に到着しても後続の 4 名はなかなか来ない。道を間違えたのかと思い携帯電話は圏外で使えない。

大きな声で「おーいまだかー」と呼ぶと遥か向こうから「どこやー、後何分位やー、引き返すぞー」「もう少しや頑張れー」そんなやり取りの末 10 分後にゼーゼー言いながら 4 名到着。

見晴らしの良い絶景を見てしばし感動の余韻にひたっていたのか？疲れを癒していたのか？とりあえず記念写真を撮り駐車場へと来た道を逆戻り。またゼーゼー言いながらの帰り道、誰かがポツリと一言「見残したら良かった」

◆ 教訓 3

- 年寄りの旅行の場合、体力は全員の平均位以下を目安に行動計画を立てるべし。
- しんどかったら引き返す勇気を持つ。

4. カーナビ事件。

今回の旅行は植木車（植木君・菅原君・森君）、加藤レンタカー（加藤君・宇高君・大内）で行動した。

2日目の観光も終わり温泉に入り後の食事を楽しみにしながら、カーナビを設定しいざホテルへ。

先導は植木車、半年前に買った最新のハイブリット車と新しいカーナビ。後続はレンタカーの加藤車、カーナビは古い。

後続の加藤車は、先導車に少し遅れを取ってしまったがこの後はホテルに行くのみなのでゆっくり走る事に。昨日の事件を思い出し大笑いそして学生時代の思い出話に花を咲かせながらの楽しいドライブ。

カーナビのお姉さまの「およそ 700 メートル目的地周辺です」のアナウンス。前の車はもう着いているだろうと話していた矢先、菅原君から携帯電話が入る「おーい引き返せ」「え？もうホテルに着くけど？」「わかり難い曲がり角だったので車を止めて待っていたけど気が付かず行ってしまった」「なんで？もうすぐで目的地周辺だとお姉ちゃんが言ってるぞ」「いいから間違えているから戻って来い」先導車には旅行を企画した植木君がいるこっちのカーナビは古い、おかしいなと思いつつもあわてて U ターン。しばらく走ると曲がり角で手を振って待っていた。

「こっちだ」「もうそこだったぞ」と言いつつ付いて行った。どんだん山の中の細い道に入って行く、こっちのカーナビは残り 700 メートルから山の裾野を一回りするルートに再検索され 1 時間後の予定到着時間に変更になった。

こっちの設定ミスかなーと話し始めたころ前の車の動きがおかしい？あきらかに迷っている運転に見えた。携帯電話は圏外で通じない。付いていくしかないと思っていたら少し広くなった山道で止まった。

「ごめん、設定を間違えていた。山の上に旧温泉が、山の下に新温泉があり、今日泊まるホテルは新温泉にある。俺の設定していたのは旧温泉だった。すまん。」

その後は後続車が先導し 30 分のロス時間の後無事ホテルに着いた。ホテルは最初に呼び返されて U ターンした場所から 300 メートル先であった。

ホテルの玄関には大きく「歓迎 植木様ご一行」の看板。

◆ 教訓 4

- カーナビの入力は電話番号で入力しホテル名を確認しよう。
- 機械が新しいからと言って過信は禁物、インプットが肝心。出発前にお互いに確認しよう。
- 自分達を信じてあと 300 メートル走って確認したら良かった。

5. レンタカー異常ランプ点灯事件。

加藤君はマイカーで来る予定だったが空調が故障となりレンタカーで参加した。

2日目ホテルを出発し桂浜に向かう途中運転中の加藤君が「あれ？変な警告ランプが点灯した」と一言。

備え付けのマニュアルを開いて見ると「エンジンのコンピュータ制御計系統に異常があります。高速運転を避けてそのまま近くのメーカー特約店に行ってください」らしい事になった。1時間後には高速に乗って走らなければいけない。

レンタカー会社からもらった「困った時にはここへ」のチラシの電話に連絡。状況を説明し対応の返事を待つ事になった。返事を待つ間、先導の植木車に連絡し道端で今後の対応を協議した。

「こんな状況だからどのような返事があるかわからない。遠くから来た菅原君、宇高君に森君を加え植木車で目的のコースを観光してくれ、加藤君と大内は返事を待って対応しディーラーに見てもらるか新しいレンタカーを借りるかして後を追う、最悪は今日の夜のホテルにはなんとか間に合うと思う」と提案した。

みなはその提案に賛同した。

高速で走る以外は大丈夫との事なので時間を稼ぐために少しでも先に進む事とし加藤車を先導車とし植木車はもしもの事を考えて少し距離を置いて後ろから付いてもらった。

高速手前で借りたレンタカー会社から連絡が入った。「その車は最近エンジンのコンピュータ制御関係の故障が多く先日も修理に出した所です。エンジンには問題無いので高速走行しても問題ありません」との事「そんなら初めからそう言つとけや」と言いながらも一安心。ただ何かあったら困るので担当者の名前と連絡があった時間を控え、一応保険会社に一報。後続車に連絡し高速を走り桂浜へと急いだ。

◆ 教訓5

- レンタカーを借りる場合は不測の事故に備えて旅行工程中のメーカー特約店、レンタカー会社の位置を良く調べておこう。
- 別行動を提案した時には「みんなで来ているのだから一緒に行動しよう」という答えを期待して言ったが甘かった。友情より観光が優先する事を心に受け止めよう。

6. 菅原君ガソリンスタンドでの異常行動事件。

田舎道のガソリンスタンドの20メートル位手前で先導車が止まり、菅原君が降りて来た。「前の車はガソリン入れようかと言っているけど、どーする？」 「こっちは半分位まだあるから明日の朝でも良いけど」 「入れると言つてるぞ」 「わかった、それでは入れよう」 そんな会話があり菅原君は車に戻って行った。

会計の大内はそのまま車には戻らずガソリンスタンドに歩いて向った。見ると先導車はガソリンスタンドに入らずそのまま直進、後続車もつられて後を付いていく。大内は何があったかとビックリし走ってボンネット叩き止まらせた。「ごめん、前の車につられてしまった」と加藤君。

携帯電話で「おーい、ガソリン入れると言ったのと違うかー」「ここで入れると言っていないぞー、もう少し先の街中の大きな所で入れる」「それなら何であんな所で止まったんや」「確認だけや」「確認だけなら携帯でせんかい！」

◆ 教訓 6

- 言った事と行動は必ずしも一致しない。確実に確かめてから行動しよう。家でも会社でも席を立てて10歩ほど歩いて、はて？今どこに行こうとしていたのかな？との経験はこの年になったら身に覚えがあるだろうと思う。たぶん菅原さんも前の車のドアを閉めた途端????・・・そんな状況になったのでは？。

「加藤君かずら橋逃亡事件」「菅原・大内混浴温泉事件」など、まだまだおかしな事件があった。とにかく笑い続けたおおぼけ・こぼけ・本ぼけ旅行であった。

最後に金毘羅さんと善通寺(四国八十八箇所霊場の第七十五番、真言宗 十八本山一番札所)に立ち寄りみなで「ぼけふうじ」の祈願。来年に予定した伊豆旅行まで元気で過ごし再会しようと誓い楽しかった3日間の四国漫遊の旅を終えた。

当事者以外の方々には????のどうでも良い話で恐縮します。お付き合い頂きありがとうございました。

以上

平成 24 年 6 月 29 日

旅行記担当 大内



竜馬を背に日本の将来と
老後を語る



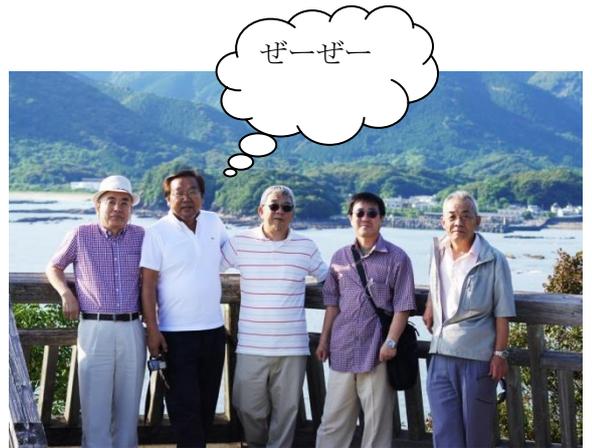
リョーマの休日



ほけ封じ祈願



美しい足摺岬



見残し海岸展望台



桂浜の裕次郎



かずら橋の裕次郎